

地域に活気 拠点復活

2014年8月の広島土砂災害で全壊した広島市安佐南区八木8丁目の集会所「上細野会館」が再建され、21日、完成式があった。地域の活動拠点が戻り、参加者に笑顔が広がった。緑井6丁目の古川土手では、住民を元気づけようと桜の植樹があった。災害から1年半。被災地の住民が、一歩ずつ前へ進む。
(加茂孝之)



住民が土地提供 八木の集会所新築

「今まで以上 親睦深める」

被災地から
新築した上細野会館は、地域交流の中心であった完成式には、災害で離れた元住民を含む約70人が出席。互いに近況報告をしながら、

「復活を祝った。管理する上細野自治会の宮本邦由会長(67)は「あつ」という間の1年半。新会館に住民が再び集い、従来以上に親睦を深めたい」と話した。新会館は木造平屋約80平方メートル。災害時、付近の住宅には地面から約50センチまで水が押し寄



①新会館の前で再建を祝う山本さん(左から3人目)や宮本会長(右端)たち
②桜を植える益田会長(左から4人目)や武田副会長(同5人目)たち

せたことから、床の位置は高さ約70センチにし、約1700万円の整備費は全額、全国のライオンズクラブからの義援金や市の補助金で賄えた。
旧会館は土砂が流れ込んで全壊。地域の会合は個人宅で開いていた。旧会館のあった場所は、砂防ダム建設に伴う立ち退きの対象となったため、新会館は自治会員の山本実さん(86)が提供した土地に建てた。山本さんは「86年住んでいる地元への恩返し。みんなの笑顔が戻るのが何よりうれしい」と喜んだ。
一方、佐東地区まちづくり協議会が古川土手で開いた植樹式には地区住民約100人が参加。広島陵北ロータリークラブ(広島市中区)から贈られた桜の木10本を植えた。クラブの武田龍雄副会長は「被災地の住民に元気づけてもらいたい」、協議会の益田康弘会長は「住民の憩いの場で満開の桜が咲くのが楽しみ」と期待した。